

# ～津波から身を守るために～

## 海岸近くで地震を感じたら

すぐに海岸から離れて、一刻も早く、高台やビルの上の階などへ避難します。感じた揺れが小さくても大きな津波になることもあるので、決して油断しない。



## 津波警報、注意報が発表されたら

県内の沿岸の多くには防災無線が設置されているので、地震を感じなくても、津波警報や注意報が発表されたときは、急いで避難します。注意報であっても危険なので、海水浴や磯釣りは、行わない。



## 日ごろの備え

自分の住んでいる地域に、これまでどんな津波被害があったのか、住んでいる市や町に問い合わせるなどして調べます。また、防災訓練に参加して避難ルートなどを確認したり、家族に小さい子供や、お年寄り、病人などがいる場合は、どう避難させるかあらかじめ考えておくことも大切です。



## 津波は繰り返し襲ってくる

津波は数時間も続く場合や、第1波よりも第2波、第3波の方が高くなることもあるので、荷物をとりに戻ったり、様子を見るために海岸に近寄りたりしない。



## 正しい情報で安全な行動を

避難先ではテレビやラジオ、防災無線などで正しい情報をつかみ、落ち着いて行動します。

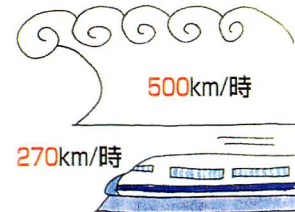


## 津波のスピードは…

海を伝わる津波の速度は、海底の深さに比例して速くなります。例えば、水深2,000mの場合は時速500kmにもなります。また、海岸近くで発生した地震による津波では、数分で到達するものもあり、津波警報や注意報が間に合わないような場合もあります。

速度比較

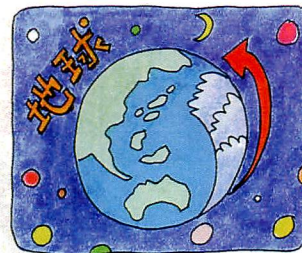
津波	水深2,000mの場合	時速500km
新幹線 (のぞみ)		時速270km
自動車		時速100km
自転車		時速20km
人間		時速4km



## 地球の反対側からも津波はやってくる

昭和35年、南米チリ沖で発生した地震による津波が23時間近くかかって、太平洋を渡り北海道、三陸、熊野灘沿岸を襲い、特に岩手県、宮城県を中心に大きな被害をもたらしました。

津波は速くへ進むほど小さくなりますが、地球の反対側に到達すると、再び大きな波になる性質を持っています。チリと日本は地球のほぼ反対の位置にあるため、大きくなった津波が日本の太平洋側を襲ったと考えられます。



## なぜ、津波は起こるのか

- 1 地震が発生すると、海底が上下に動きます。
- 2 その海域で、海水が持ち上げられたり入り込んだりして、付近の海水面に高低が生じます。
- 3 海水面が数回ないし数十回上下に動揺し、津波となって四方に伝わります。
- 4 津波は湾や入り江の近くに達すると急に波の高さが高くなります。

